

“勝ったのは誰のおかげ？ 負けたのは誰のせい？ …でいいですか？”

団体スポーツなどで勝った時、例えば、プロ野球では「ヒーローインタビュー」があります。そのときヒーローになった人が必ず言うのが「他の選手が繋いでくれたから」「投手の皆さんが頑張ってくれたから」「ファンの皆さんの声援があったから」です。インタビューを受けている選手は、確かに勝利に導いたプレーをしたのですが、その場面を作ってくれたのがチームメイトであることをよく理解しています。要するに勝ったのは、ヒーローになった人のおかげでなく、チーム全体の力なのです。では、負けたときは、どうでしょうか？ エラー（ミス）をした人のせい？、打たれてしまったピッチャーのせい？ なのでしょうか。人は勝敗にこだわりすぎると、負けた時、原因を誰かのせいにしてしまうことが多いです。今年の夏に行われたパリオリンピックでの男子バレーボールの試合で最後にサーブミスをした選手に対し、「あのサーブミスで負けた」など責任を押し付ける投稿が数多くあったそうです。確かに大事な場面でしたが、トータルで見るとたかが1回のサーブミスです。日本の選手も相手チームもこの試合では多くのサーブミスをしていました。トータルで1ポイントがチームとして取れなかったから勝てなかったのです。ただ、プロ野球の選手も男子バレーボールの選手も負けたことを人のせいにすることはありません。それは、チームとして負けたことを知っていて、自分がチームを勝たせるためのプレーができなかったと思っているからです。勝負の勝ち負けは、個人のおかげでも、個人の責任でもないのです。チームとしての取組の結果なのです。

さあ、いよいよ体育祭です。クラスのムカデ競走、背わたりリレー、大縄跳びなど調子はいかがですか？ まさか、「あの人に・・・」と頼りすぎたり、「あの人が・・・」と誰かに責任を押し付けたりしていないと思いますが・・・。例えば、大縄跳びで上手く跳べない人がいたとします。「ちゃんとやれよ・・・」という言葉で上手くできるようになりますか？ ムカデでよく止まる人がいます。「しっかり合わせて・・・」と言ってできるようになりますか？ 本当にチームとして勝ちたいなら、クラスとしてそれらの苦手な人にどのように働きかけるかを考え、行動に移すことではないでしょうか？ みんなで考え、みんなで取り組んで、それで勝てたら最高ですよ。クラスみんなの勝利です。万が一負けてしまったときは、クラスとして何かが足りなかった、クラスみんなの力が一歩及ばなかったというだけのことです。いずれにしてもみんなでクラスの勝利のためにどうすればいいかを考え、全力で行動に移したことは、必ず今後生きてきます。そこは保証します。

結局は、勝つも、負けるも誰のおかげでも、誰のせいでもないのです。チームで戦っているのだからみんなのおかげであり、みんなのせいなのです。

最後にいい勝負をするには、みんなが安心できる、頑張ろうと思える声を掛けることです。自分は勝ち負けより、その声をたくさん聞きたいと思っています。